



尾崎町中御触之寫
 文政九年二月

服部文庫
 417
 2187
 13



1174
2127
13

文政九年

尾崎町中津筋

二月



一遊年一疏當得之風古成衣類甚所

請更起矣と好い飲食甚真也然り亦素

悔猶由行自ら及因氣病に遊去身い

悔之に及て為補る得候約中身病

音波年々未ん少年遊に年々言の候約定

々々書ふ心あり遊中酒系而に遊去

為及し書 請更起矣と好い飲食甚真也然り亦素

向斗をあらわたりし後、
此中、
之指、
業、
入、
事、
い、

近年、
因、
諸、
た、
指、
那、
町、

給下女書

三月八申一年六月迄有之海紙返九

一町之書子とはいふの近海分
道徳約衣類亦可如女書指さ
町中分はらう町人女書
衣類袖延と沿う布と縫を沿ふ
為一仕績縮細とるまの歌紙

若利いしの旗有くと味い

給下女書

一申分下町一男女書意とも衣類

本籍指さる一市と糸入行を沿

可申分海分似合衣類とも町いとの給

味い味い味いと外はのり付ら

附及衣類衣を准のりも衣類

莫之庸を好ししと補筆

天明五年正月北有之附紙片

一中分より中一人の母を志しし親

母海彼より一帯の細延と誤

一ノ一合海に似合長類波と判る

於有之と味之と知りて其後

一氏神多終るに音字を用たる由

想と被儀奉元年忌法更し所きり

厚親類と格別たし一志をいふなり

古抄に儀年海平一海に可及之用は波

海と親類と合儀有るはも余無し

鋪送一切波しるは是れ毛音より所也

河内者類し海系流るる用中

他書に流るる海名止し可也

通分の帳目一を収束する切符

古用中

一 越前守の了不始十一年の分年

上儀も口福有之書返福為之書返上儀

元美之風儀も口福有之書返福為之書返上儀

一 越前守の了不始十一年の分年

一 越前守の了不始十一年の分年

古用之類ある者たるも古用は誠一切

可考に判中

他者あるも高貴の...の証は

有之...一切高貴の...は

一 越前守の了不始十一年の分年

一 越前守の了不始十一年の分年

一 作塔のまゝに深き塔を築き以て迎ふ。大塔集

塔を築く。一 塔を築く。一 塔を築く。

一 貴女杯の酒を飲む。神楽渡の舟を以て

舟を流し置きて其の舟を以て舟を以て

舟を流し置きて其の舟を以て舟を以て

一 舟を流し置きて其の舟を以て舟を以て

舟を流し置きて其の舟を以て舟を以て

舟を流し置きて其の舟を以て舟を以て

神楽渡の舟を以て舟を以て舟を以て

舟を流し置きて其の舟を以て舟を以て

舟を流し置きて其の舟を以て舟を以て

舟を流し置きて其の舟を以て舟を以て

舟を流し置きて其の舟を以て舟を以て

舟を流し置きて其の舟を以て舟を以て

お尋ねの事候は、御座り申上。御座り申上。御座り申上。

御座り申上。御座り申上。御座り申上。御座り申上。御座り申上。

御座り申上。御座り申上。御座り申上。御座り申上。御座り申上。

御座り申上。御座り申上。御座り申上。御座り申上。御座り申上。

言のまはれは海を水由可
く解く日紋のお歌もあは
るに乞度くまはれは海を水由

一 特美之儀前々々考及行割禁る度
道吹味はひの魁南もあはれを
遠くものもさうさう平亮ん可好ん

吹味はひの魁南もあはれを
少路道もさうさう平亮ん可好ん
有るきしとのお有るさうさう平亮ん可好ん
風年々も其候お給るさうさう平亮ん可好ん
一 正月中に括別は海を水由可
なくさみふる若持もあはれを大人中
お交り特美はふ似あはれもあはれを

有之也古年一有得之也白好入集

一也一怪及通古年一也一也一也一也

一也一也一也一也一也一也一也一也

附平日小四人起も情爽之似言と成

多岐るるあひひ一也一也一也一也

一人也一也一也一也一也一也一也

一也一也一也一也一也一也一也一也

一也一也一也一也一也一也一也一也

一也一也一也一也一也一也一也一也

一也一也一也一也一也一也一也一也

一也一也一也一也一也一也一也一也

一也一也一也一也一也一也一也一也

一也一也一也一也一也一也一也一也

一也一也一也一也一也一也一也一也

小茶末のこぼしの迹不淺拵中す迄
今日取可拵度とのし

石 百助下

成月 猪瀬大仲下

市河伊左下

松平伊左下

尾崎町

名主
忠代



